事 項	アカクローバの奨励品種「リョクユウ(系統名北海13号)」の特性
ねらい	本県に適するアカクローバの品種を選定するため、生育特性及び生産性を調査した結果、「リョクユウ」が既存の奨励品種と比較して永続性及び収量性に優れることが明らかとなったので奨励品種として普及に移す。
普及する内容	1 来 歴 「リョクユウ」は、北海道農業研究センター及び道立根釧農業試験場において平成3 年から永続性と耐寒性の向上を目指し、10,536個体および116母系から選抜された。 育成系統名は「北海13号」としたが、その後、「リョクユウ」で品種登録を行った。 平成28年から販売が予定されている。 2 特性の概要(標準品種「ナツユウ」との対比) (1)発芽の良否は同程度である。 (2)越冬性は同程度である。 (3)着花茎出現程度は1番草及び2番草は同程度で、3番草はやや多い。 (4)草丈はやや高い。 (5)マメ科率は高く、混播適性は高く、永続性に優れる。 (6)総乾物収量は3か年平均で105%の多収を示す。 (7)育成場所における開花始期は6月20日と同日であり、本県では「早生」に属する。
期待される 効 果	粗飼料の安定生産に資する。
普及上の注意事項	オーチャードグラスの晩生品種との混播に適する。
問い合わせ先 (電話番号)	畜産研究所 酪農飼料環境部(0175-64-2791) 対象地域県下全域
発表文献等	平成20年度 東北農業試験成績・計画概要集

【根拠となった主要な試験結果】

表 1 生育特性

(平成17~20年 青森畜産研)

	品 種 名		備考	
形質	リョクユウ (北海13号)	ナツユウ (標準品種)	(評点法)	
発芽の良否	6	6	1 (極不良) ~ 9 (極良)	
越冬性	5	5	<i>y</i>	
着花茎出現程度(1番草)	1	1	1 (無) ~ 9 (極多)	
着花茎出現程度(2番草)	3	3	JJ	
着花茎出現程度(3番草)	4	3	II	

- (注) 1 発芽良否は平成17年秋の調査。
 - 2 越冬性及び着花茎出現程度は平成18~20年の3か年平均。

表 2 草 丈(cm)

表3 マメ科率(%)

(平成18~20年 青森畜産研)

	品種名	利用1年目 (平成18年)	利用2年目 (平成19年)	利用3年目 (平成20年)	3か年平均
I	リョクユウ	48	66	56	57
	ナツユウ (標)	46	60	54	53

(注) 1~3番草の平均値。

(平成18~20年 青森畜産研)

品種名	利用1年目 (平成18年)	利用2年目 (平成19年)	利用3年目 (平成20年)	3か年平均
リョクユウ	15	40	12	22
ナツユウ (標)	15	35	8	19

(注) 平成18年は生草、平成19及び20年は乾物中におけるマメ科率。

表 4 利用年次別総乾物収量(kg/10a)

(平成18~20年 青森畜産研)

品種名	利用1年目 (平成18年)	利用 2 年目 (平成19年)	利用3年目 (平成20年)	3か年平均
リョクユウ	1,039 (103)	1, 178 (109)	1,070 (103)	1,096 (105)
ナツユウ (標)	1,004 (100)	1,084 (100)	1,042 (100)	1,043 (100)

(注)() 内は標準品種を100とした指数。

耕種概要

項目		内	容	
試験場所播種期播種方法施肥量	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	ーバ0.3kg/10a、オカル300kg/10a、20 = 5-5-5kg/10a	•	0
	年次	早春	1番草後	2番草後
	利用1年目	6.0-4.0-4.0	3.0-2.0-2.0	3. 0-2. 0-2. 0
	利用2年目以降	9.0-6.0-6.0	6.0-4.0-4.0	3. 0-2. 0-2. 0
刈取期		チャードグラスの{	出穂期	